



# ナゴシドンの つなぎ手

平成30年度 報告書

主催  
ナゴシドンのつなぎ手事業  
肝付町（地域おこし協力隊）

編集・発行  
ナゴシドンのつなぎ手事業  
平成31年2月

# ナゴシドンの つなぎ手

平成30年度 報告書



## 目次

1. ごあいさつ	p. 4
ナゴシドンのつなぎ手事業 会長	
平田神社 宮司	
2. ナゴシドンと平田神社の神舞	p. 5
3. ナゴシドンのつなぎ手 2016 - 2018	p. 6, 7
4. ナゴシドンのつなぎ手 2018	
参加者のことば	p. 8, 9
写真	p. 10, 11
実施要項	p. 12, 13

# 1 ごあいさつ

ナゴシドンのつなぎ手 会長  
榮倉茂樹

伝統行事、無形民俗文化財は、継承されている地域の生活・風土と結びつきながら継承されてきました。「ナゴシドン」「平田神社の神舞」にも、この地に生きてきた人々の祈りや魂が込められています。その思いと600年もの間継承されてきた重みに寄り添いながら「つなぎ手」事業に取り組んでから3年が過ぎました。

この間、つなぎ手たちや教え手たちの姿は、地域での青少年教育、地域コミュニティに新たな示唆を与えてくれたように思います。ナゴシドンの力は地域を育み、また地域の力によって、ナゴシドンは今日まで伝えられてきたのです。

これからも、ナゴシドンに関わってくださった人々と共に歴史を刻んでいきたいと願っています。

ナゴシドンのつなぎ手 顧問  
平田神社 宮司 上園久美子

毎年多くの皆様にご協力やご支援を頂き、感謝申し上げます。数年前までは、この夏越祭をいつまで続けられるかと心配の日々を送っており、父から引き継いだ神職も責任の重さがのしかかり、伝統を守ることの難しさを感じておりました。そういう中、各方面から新たな協力者が出現し、今日の大きな注目や更なるご協力を頂けるようになった次第です。

今回の夏越祭も無事に終えることができましたが、今後の課題としていくつか反省すべき点がありました。宮司としての資質や知識を高め、皆様に信頼を得られるよう精進したいと決意する次第です。

この行事に携わってくださっている全ての皆様、どうか今後ともよろしくご協力お願い申し上げます。

# 2 ナゴシドンと平田神社の神舞

盛夏を彩る伝統行事  
「ナゴシドン」

鹿児島県大隅半島の太平洋側に位置するまち、肝付町。山と海にかこまれたこの町の片隅・岸良地区で受け継がれてきた伝統行事が、ナゴシドンです。盛夏の白い砂浜で、青々とした山と海、真っ赤な神面三体を背に、600年以上の歴史がある神舞を披露します。

平田神社創建の起源は不明ですが、現存する最古の記録は1407年（応永14年）に肝付氏11代兼元が社殿を修造した棟札です。ほかにも同様の記録があることから、領主より大切にされていたことが想像され、神舞もその頃から伝承されていたのではと考えられます。

長い時を経て今では担い手が減り、いくつかの神舞が途絶え、行事が簡略化されるようになりました。

このような状況下、あらためて行事と神舞の意義を見直し、積極的な継承活動と地域振興に取り組もうという考えから、平成28年に「ナゴシドンのつなぎ手」を始めました。

町指定無形民俗文化財  
「平田神社の神舞」

その昔、肝付町高山地区の四十九所神社から伝えられた神舞。町指定無形民俗文化財に指定されているのは8つですが、以前はそれ以上存在しました。

伝習の詳しい経緯や途絶えた神舞の詳細は、資料が焼失しているため明らかではありません。しかし残る資料や口伝から、戦後のナゴシドンでは神舞を夜通し奉納したり、ほかのお祭りやお祝い事の折にも披露したりと、住民に親しまれていたことがわかります。

## ナゴシドンの特徴

### ナゴシドン当日の行程

- 一 ナゴシドンの始まり  
…神社の祭神を、ご神体から猿田彦命（ハナタコドン）の神面三体へうつす。
- 二 浜下り（御神幸）  
…露払いの薙刀と神面三体を先頭に、浜へ。
- 三 汐がけ  
…神面三体に海水をかけて海神を宿らせ、祭壇を設ける。
- 四 神事  
…宮司が大祓詞を述べる。
- 五 神舞奉納  
…神舞を奉納し、五穀豊穡と地域安泰を祈願する。
- 六 茅縄くぐり  
…茅の縄をくぐることで、それまでの半年の日々の穢れをおとし、その後半年の無病息災を祈願する。
- 七 ナゴシドンのおわり  
…神社へ戻り、祭神をご神体へ戻したら、ナゴシドンの終了。

日にち 毎年 8月14日  
午後から夕方にかけて

### ナゴシドンの名前の由来

全国的に行われている「夏越祭」が鹿児島風になまり、いつの頃からか「ナゴシドン」と呼ばれるようになりました。  
また地元の人々は、このお祭りのシンボルともいえる猿田彦命の神面三体にちなみ、行事そのものを「ハナタコドン」と呼んだりもします。

### ナゴシドンの意味

- \* 浜下り・神舞奉納  
平田神社の祭神（大山祇命・金山彦命・猿田彦命）と海神が宿った猿田彦命の姿を模した神面三体を前に、岸良海岸で神舞を奉納する。これにより、地域安泰と五穀豊穡を祈願する。
- \* 茅縄くぐり（茅縄くぐり）  
それまでの半年間の日々の穢れをはらい、その後の半年の無病息災を祈願する。

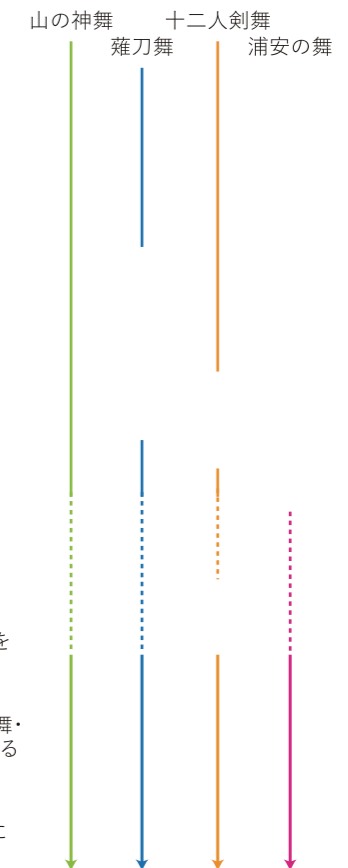
### 神舞の種類

- ① 座着舞（途絶）
- ② 鬼神舞（途絶）
- ③ 山の神舞 …勝利の風を吹かせる。
- ④ 田の神舞（途絶）
- ⑤ 四方鬼神舞（途絶）
- ⑥ 薙刀舞 …悪魔退散を祈る。
- ⑦ 十二人剣舞 …荒ぶる神をはらう。
- ⑧ 岩戸舞（途絶）
- ⑨ 浦安の舞 …国の平穏を祈る。継承可能な「平田神社の神舞」が少なくなってきたことから、近年奉納されるようになった。

## ナゴシドンと神舞の変遷

- ??年 四十九所神社から神舞を伝習する
- 1407年 肝付氏11代兼元が神社を修造した記録がある岸良氏・肝付氏の時代にはほかにも修造が行なわれた記録があり、領主の崇拝があつたことが分かる
- ~~~~~
- 1950年 ・薙刀舞が途絶える
- 1964年 ・旧内之浦町の無形民俗文化財に指定される（現在：肝付町指定無形民俗文化財）
- 1972年 ・十二人剣舞が地元小学生に伝承される
- 1981年 ・十二人剣舞が途絶える
- 1983年 ・この時すでに、浜下りは省略されていた
- 1988年 ・山の神舞が新たな舞手へ継承される
- 1995年 ・薙刀舞が新たな舞手へ継承される
- 1996年 ・十二人剣舞が子ども3名により復活する
- 2011年 ・山の神舞や十二人剣舞は舞手の不足のため薙刀舞は舞手の高齢化のため披露が難しくなってきたことから、浦安の舞が取り入れられる
- 2012年 ・十二人剣舞が地元中学生6名により披露されたのを最後に途絶える。その後披露されるのは山の神舞・薙刀舞・浦安の舞のみとなる
- 2016年 ・「ナゴシドンのつなぎ手」が始まり、山の神舞・薙刀舞・十二人剣舞・浦安の舞が参加者らによって披露される・浜下りの行程が復活する
- 2017年 ・明治安田クオリティオブライフ文化財団より平成29年度「地域の伝統文化保存維持費用助成」に採択される

### 近年継承されている主な神舞の動向



この年表は、下記資料から判明した事柄を要約し、記載しています。  
・内之浦町誌編集委員会『内之浦町誌』鹿児島県肝付郡内之浦町役場・内之浦町教育委員会、2003.03  
・過去の南日本新聞記事、旧内之浦町報、肝付町報  
・平田神社宮司や神官、神舞の教え手、岸良地区住民の語り など

# 3 ナゴシドンのつなぎ手 2016 - 2018

2016  
- 1年目 -



町内外から参加者を募り、ただ神舞の振りを覚えるだけでなく、地域のことでも知ってもらう。そんなコンセプトのもと、実行委員会を組織しました。メンバーは、昔からのナゴシドン関係者や、舞手・教え手・奏者の経験がある地域住民、そして参加者募集などの実務を担う地区外出身者。

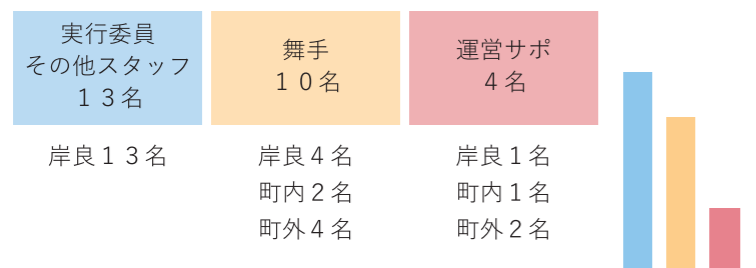
インターネットや地元メディア、知人を通じて募集をおこなった結果、県内・関東・関西から、大学生や社会人、プロのパフォーマーなどの参加者が集いました。

練習のため参加者が岸良地区に8日間滞在するにあたり、それまでナゴシドンとは関わりのなかった住民から、食事準備や交流会への協力を得ることができました。

参加者にとっても、住民と幅広く接したことにより、「岸良の人として舞いたい」という気持ちが芽生えました。

当日は想像以上の観客が見守る中、復活した「浜下り」で岸良海岸へ向かい、4つの神舞を見事披露することができました。

2017  
- 2年目 -



前年の参加者や地域住民の「やはり地元からの参加者もいれば…」という声を受け、2年目は地元からの参加も募りました。

「自分の子どもを参加させたい」という実行委員メンバーや、「やってみたい」という地域の大人や子どもたちから手が挙がりました。

また、前年の参加者が再び参加し、初参加の子どもたちに経験者として神舞の振りのアドバイスをする場面が見られました。さらに、前年の参加者の紹介で申し込んだ人や、まったく初めての参加者も。

小学2年生から60歳まで、よそからも地元からも、舞手と運営のサポート役を幅広く得ることができました。

よそからの参加者の滞在対応のため、昨年に引き続き地域住民からの協力を募りました。お盆の時期と重なるため毎年同様に協力を得ることはできなくとも、当日の行事運営に至るまで様々な協力や配慮をいただきました。

2018  
- 3年目 -



「去年の舞手にあこがれて」  
「実はやってみたいと思ってた」  
「東京から帰ってくるよ」  
「手伝いだけでも参加します」

ナゴシドンのつなぎ手の3年目は、そんなうれしい言葉とともに参加者が集まりました。下は小学3年生から、上は67歳まで。岸良や肝付町を離れざるをえなかった人たちが帰ってきたり、昨年・一昨年に続けて参加する人がいたり、「地域」にもっと関わってみたいという人が手を挙げてくれたり…。

とりわけ顕著だったのは、運営のサポート役の急増です。「短期間でも可能なら関わりたい!」という人が多く、ナゴシドン当日の前の日から岸良に来ていただきました。

集合写真に映る人数が年々増えていくことに喜びを感じる一方で、参加者への役割の振り方や滞在の対応について課題が見られました。

「つなぎ手」という言葉の意味を再考する場面もありました。「舞手としてナゴシドンをつなぐのではなく、違う形でつなぎ手になるには…」と答えをさがす参加者。「地域住民が自らつなぎ手として動いていかなければならない」と語った実行委員。

この規模の地域で行事を継続すること、その時々状況に対応すること、変化をおそれないこと。難しさはいくつもありますが、地域の状況に合うかたちで、来年以降も「ナゴシドンのつなぎ手」を続けていきたいと思えます。



# 4

ナゴシドンのつなぎ手 2018  
- 参加者の言葉 -

## 参加前に期待していたこと

昨年の舞を見て私が憧れたように、私の舞を見て「来年やってみたいなあ」と思ってもらえるような舞をすること。  
＜舞手＞

600年前から受けつがれてきたものを自分ができることがうれしかった。  
＜舞手＞

ナゴシドンを知る。  
ナゴシドンに触れる。  
地区の人と交流する。  
歴史を感じる。  
岸良のことをもっと知る。  
＜運営サポ＞

どのような方がナゴシドンに関わっていて、どんな雰囲気や練習など行っているのか見てみたかった。  
＜運営サポ＞

普段着ることのできない衣装を着れること。  
＜舞手＞

昨年みたいに、おつかれさま会があること。  
＜舞手＞

ことしは、12人つるぎのまいで12人そろっているのかと期待していた。  
＜舞手＞

去年よりも、もっと上手に舞をおどりたい。  
＜舞手＞

おどり。  
＜舞手＞

600年間続けられてきたナゴシドンの歴史を知りたかった。  
＜運営サポ＞

ナゴシドンメンバーとの再会。  
＜舞手＞

岸良との再会。  
お世話になった人との再会。  
そして、ナゴシドンに再度かわりをもつということ。  
＜運営サポ＞

地元の人たちがナゴシドンを含む地元の事に対して、どのくらい興味を持ち、関わろうとしているのかを見たいと思ってきました。  
＜運営サポ＞

## ナゴシドンを終えての感想

ナゴシドンの練習も良かったので、またナゴシドンでたいです。  
＜舞手＞

練習時の休けい中や本番の待っている間に、サポートの人たちが水をくんでくれたり、タオルをくばったりしてくれたのがうれしかった。  
＜舞手＞

夏休みのいい思い出になりました。みんなで心をひとつにして、今までで一番の舞ができてよかったです。  
＜舞手＞

地元出身のみによる舞が実現した今、自分の舞い手としての「つなぎ手」はひとまず終了したという気持ちですが、これからも今回のように別の形の「つなぎ手」として関わっていけたらと思います。  
＜運営サポ＞

私は年に数日しか岸良と関わることができませんが、今後どのような形であれ、応援できたら、と考えています。  
＜運営サポ＞

人口減をとめる事は難しいですが、ナゴシドンの様な交流人口を増やす事が重要だと思います。お金の流れが出来る仕組みを作る事も。  
＜運営サポ＞

昨年のナギナタ舞を見て、今年こそは自分がやるという夢が叶ったことがとても良かった。  
＜舞手＞

ナゴシドンに集まってくれたお客さんたちを見て、ナゴシドンはいろんな人に愛されているんだなと感じました。人の愛ときずなを感じたナゴシドンでした。  
＜舞手＞

オリエンテーションの前は、ナゴシドンについて何も知らなかったけれど、日が経っていくうちに少しずつ分かってきた。  
＜舞手＞

つなぎ手の事業も3年目で地元の意識や関わり方も変わってきたようですが、長く続けていくことの大切さがわかりました。  
＜運営サポ＞

参加者の話や様子から、ナゴシドンがみんなのかえる場所になっているのだなあとしみじみ感じました。私もこれからまたかえってこれたらいいなと思います。  
＜運営サポ＞

岸良・ナゴシドンにかかわりをもって3年目。確実にステップアップしているのかなと思います。  
＜運営サポ＞

とても気持ちよく舞うことができました。また、地域の方々に「きれいだったよ」などいろんな言葉をかけていただいて、すごくうれしかったです。  
＜舞手＞

おつかれさま会でも、みんな全力を出しきったみたいなお顔をしていたので良かったです。  
＜舞手＞

1年目、2年目、舞い手として参加させて頂いた際は、舞いや歌を覚えることに必死で、全体をみるのがあまりできていませんでした。今回、初めて運営サポートとして参加させて頂き、運営側の準備の大変さや関係者の方々の多さをかいま見ることができました。おそらく自分が見たものはほんの一部で、自分の見えない所でのさらなる努力や関わっている方々がいたと思います。去年までもそれらはあって、その方々に支えられ舞うことができることはとても幸運だったという想いを今年感じる事ができました。  
＜運営サポ＞



ナゴシドンのくわしい様子は  
HPからもご覧になれます

nagoshidon.com

# 4 ナゴシドンのつなぎ手 2018

## - 写真 -



ナゴシドンのくわしい様子は  
HP からご覧になれます  
nagoshidon.com

オリエンテーション、神舞練習、岸良海岸のごみ拾い



8月14日、ナゴシドン当日



平田神社ではじまり



浜下り



神面三体



玉串奉納



左上：浦安の舞、右上：山の神舞  
左下：雑刀舞、右下：十二人剣舞



茅縄くぐり

# 4 ナゴシドンのつなぎ手 2018

## - 実施要項 -

2

### 1. 目的

- (1) 鹿児島県肝付町岸良地区で受け継がれる伝統芸能「ナゴシドン」の継承
- (2) 伝統芸能の継承に向けた地区内外の人的交流による地域の活性化

### 2. 内容

地域伝統芸能・文化に興味のある町内外の若者を、「平田神社の神舞の舞手」または「運営のサポート」として募集する。「神舞の舞手」への参加者は、地域住民の指導のもと、岸良地区に滞在しながら神舞の習得に向けた練習を行う。そして8月14日の「ナゴシドン」で舞手を務める。また同時に、地域住民との交流を通して地域文化の理解に努める。「運営のサポート」への参加者は、スタッフの指示のもとで他の参加者の練習や滞在中のサポートにあたる。また同時に、地域住民との交流を通して地域文化の理解に努める。

### 3. 主催

ナゴシドンのつなぎ手事業・肝付町（地域おこし協力隊）

### 4. 実施期間

参加者の受け入れ：平成30年8月9日（木）～15日（水）  
 ※実施期間は上記を原則とするが、個々の相談に応じる。

### 5. 実施内容

- (1) 参加者の募集・受け入れ
- (2) 神舞伝授体制の準備
- (3) 用具などの整備
- (4) 継承用映像記録の作成
- (5) 参加者への神舞伝授
- (6) ナゴシドン運営
- (7) 参加者へ活動のフィードバックを依頼

### 6. 募集・事業について

	神舞の舞手に参加する	運営のサポートに参加する
内容	①ナゴシドンで披露する町指定無形民俗文化財「平田神社の神舞」のうち、希望する神舞の練習に参加する ②ナゴシドン当日に神舞を披露する ③プログラムを通じて、岸良の自然・食・人を満喫する	①各種プログラムを実施する際のサポートをおこなう 例：神舞練習時の会場準備、給水、食事の配膳、片付け、毎晩の「1日のふりかえり」ナゴシドン当日の給水、記録用写真の撮影 など ②プログラムを通じて、岸良の自然・食・人を満喫する
募集人数	・山の神舞 1名 ・薙刀舞 1名 ・十二人剣舞 12名 ・浦安の舞 2名	若干名
対象	下記条件を満たすこと ①心身ともに健康で、真夏の体育館や屋外での活動をこなす体力があること ②定められたプログラムに積極的に参加できること ③他の参加者や神舞の教え手、地域住民等との交流に抵抗がないこと	
参加費	おひとり 1万円 集合した時にいただきます 滞在に係る経費をまかなうために活用させていただきます （宿泊・食事・温泉入浴・傷害保険等） ただし、主に地元からの参加ハードルを下げるため、下記のとおり定めます ・練習およびナゴシドン当日にのみ参加し、合宿には参加しない場合の参加費：無料 ・合宿への参加を希望するが、寝具を参加者が持参する場合の参加費：5千円	

### 7. 応募について

- (1) 応募〆切 平成30年7月15日（日）
- (2) 応募方法 HP (<https://www.nagoshidon.com>) の応募フォームに必要事項を記入したうえで送信する。

### 8. 利用施設等

- (1) 宿泊 肝付町基幹集落センター岸良会館（肝付町岸良 482-1）
- (2) 入浴 湯治湯の郷 湯の谷温泉（肝付町岸良 1603-20）
- (3) 食事 原則、宿泊先で自炊。

### 9. 注意事項

- (1) 運転免許を取得していない、遠方から来るなどの理由から各自で集合場所へ来ることが困難な場合は相談に応じます。
- (2) 参加者の傷害保険加入は主催者が行ないます。
- (3) 本企画の目的は、
  - ①鹿児島県肝付町岸良地区で受け継がれる伝統芸能ナゴシドンの継承
  - ②伝統芸能の継承に向けた地区住民と都市住民の交流による地域の活性化 です。
 伝統芸能としてのナゴシドンを通して、岸良という地域の魅力や伝統を受け継ぐ地域の取組について知って欲しいという趣旨で開催するものです。特定の宗教を普及するものではありません。

### 10. 問い合わせ先

ナゴシドンのつなぎ手事務局 担当：肝付町地域おこし協力隊 田中  
 〒893-1402 鹿児島県肝付郡肝付町南方 2643  
 肝付町役場内之浦総合支所 産業創出課内  
 TEL 0994-67-2116（産業創出課直通）  
 E-mail [nagoshidon@gmail.com](mailto:nagoshidon@gmail.com)  
 HP <https://www.nagoshidon.com>



主催  
ナゴシドンのつなぎ手事業  
肝付町（地域おこし協力隊）

協力  
参加者との交流・食事 NPO 法人 陸の宝島・岸良、デイサービスきら  
ほか 岸良地区のみなさま

宿泊 岸良地区基幹集落センター岸良会館、築倉家  
入浴 湯治湯の郷 湯の谷温泉（内之浦森林組合）

練習場所 旧肝付町立岸良小学校 体育館

岸良海岸会場整備（有）甲斐工業  
当日音響 肝付町役場  
当日保安 肝付警察署

寄付・協賛  
岸良地域づくり協議会  
川口振興会、港振興会、本地振興会、下西振興会、上西振興会、大原振興会、浜振興会  
肝付町役場内之浦総合支所職員のみなさま

写真をご提供くださいましたみなさま

※順不同、敬称略  
※協力・寄付・協賛については、個人名の記載を控えさせていただきました  
このほかにも、練習や交流、ナゴシドン当日など、  
たくさんのご協力をいただき、誠にありがとうございました





ナゴシドン  
夏祭  
Nagoshidon



鹿児島県大隅半島の、盛夏を彩る伝統行事

[nagoshidon.com](http://nagoshidon.com)